Osaka University Knowledge Archive

Title	真夜中に咲く花 : 古ベンガル語の仏教修行歌集と吟遊詩人バウルの口承詩
Author(s)	北田, 信
Citation	印度學佛教學研究. 2009, 57(2), p. 283-288
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/57166
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

真夜中に咲く花
——古ベンガル語[1]の仏教修行歌集と吟遊詩人バウルの口承詩[2]——

北田　信

仏教修行歌集「チャルヤーパダ」(チャルヤーギーティ)は，新期インド・アーリヤ語の最古の資料である．チャルヤーパダの写本は20世紀初頭にネパールで発見された．

チャルヤーパダは内容的にも大変興味深く11～12世紀[3]にインド東部に広まっていた仏教タントラ，特に，その性交修行を扱っている[4]．ただし歌詞は，象徴・暗号を用いた謎歌になっており，教団の秘密の教えの手ほどきを受けていない我々部外者が，暗号によって隠蔽された秘儀的な内容を理解するのは非常に難しい．

性交修行において修行者は女性のパートナーと交接するが，この際，膣内に射精せず，スシュムナー管に精液[5]を逆流させ，頭頂まで引上げることにより，修行者は法悦を得る．

チャルヤーパダのコード言語を解読するための手がかりは二つある．一つ目は，チャルヤーパダ写本に記載されている，仏教徒ムニダッタ(13世紀[6])による梵語の注釈である．これは13世紀の仏教タントラの高度に整備された理論に従った解釈である．

もう一つの手がかりは，現代インドのベンガル地方にいるバウルと呼ばれる宗教的芸能集団である．彼らは，村々を回って修行歌を演奏しながら門づけ・托鉢をして生計を立てる世捨て人である．「身体は小宇宙であり，身体に神が宿る」と信じ，身体の真理を体得するための修行として性交修行を行う．彼らの修行歌は謎歌となっており，象徴・暗号を多用して性交修行の奥義を述べる．

バウルの修行歌に用いられる象徴的暗号とチャルヤーパダの暗号との間には驚くべき類似が見られる．千年程の時間の隔たりにもかかわらず，バウルの修行歌とチャルヤーパダの歌詞が同一のコードを共有する例が数多くあり，バウルは，チャルヤーパダを作った詩人たちの末裔であると考えるしかない．バウルの修行歌を“生きた注釈”として使うことができる．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

バウルについては文化人類学者のフィールド研究が進んでおり，彼らの修行法についても，具体的かつ詳細に知られている[7]．バウルのコード言語の仕組みについても多くの研究がある[8]．これらの研究は，チャルヤーパダの暗号解読に役立つ．

しかし，上記二つの手がかりをもとにチャルヤーパダを解読していくと，一つの問題が生じる．バウルを手がかりにして導き出された解釈が，しばしば，ムニダッタ注の解釈と異なるのだ．しかも，バウルの解釈の方がチャルヤーパダの原義に，より近いと思われる場合がある．

一例としてチャルヤーパダ第４歌の第１連・第２連を見てみよう．第４歌は性交修行を描写する．

tiaḍḍā cāpi joini de aṅkabālī / kamala kuliśa ghāṇṭe karahũ biālī //1//
joini tāi binu khanahĩ na jībami / to muha cumbī kamala rasa pībami //2//
〈和訳[9]〉
1. ヨーギニーよ！三角（＝女性性器）を押して抱擁［して］くれ．
蓮華（＝女性性器）と金剛（＝男性性器）を擦ることにおいて，夜を［作り］なせ．
2. ヨーギニーよ！君がいないと僕は刹那たりとも生き［られ］ない．
僕は君の口にキスして蓮華の蜜・ジュースを飲む．〈和訳終わり〉

ここで問題にしたいのは第２連「ヨーギニーよ！君がいないと僕は刹那たりとも生き［られ］ない．僕は君の口にキスして蓮華の蜜を飲む．」である．ムニダッタ注はこれを，「精液がスシュムナー管を通って頭蓋に到達することにより，修行者は頭蓋のチャクラに生まれる法悦を味わう」という風に解釈するのである．

ところが Gordon White［2003, pp.27-28］はこの箇所を“O Yoginī, without you I cannot live for a moment; having kissed your mouth［vulva］, I drink the juice of the Lotus.”と訳す．性交修行の絶頂で修行者は女性パートナーの性器からの分泌液を経口摂取した，というのだ[10]．

ホワイトは主にシヴァ派の文献を用いているが，実はバウルの歌詞にも類似する表現が用いられている．それは次のようである．

1. “花”

「経血」（rajas）のことを梵語で「花」（puṣpa）とも呼ぶが[11]，バウルはこの表現を受け継いで「花」（phūl'）と呼んでいる．バウルの修行歌において，ヨーニが「八弁の蓮華」（aṣṭadal'-padma）「ラーダーの蓮華」（rādhā-padma）「ヨーニの蓮華」（yoni-padma）などと呼ばれることがある[12]．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

2. “ジュース”（Skt. rasa / Bengali ras'）

バウルの研究者 U. Bhaṭṭācārya 1980, p.374 によれば，バウルのコード言語において“蜜・ジュース”（rasa）は“経血”を意味し，“ジュース（rasa）を飲む”という表現は“男女が，お互いの性器から分泌される液体を飲む”ことの象徴的な表現だ，という．

U. Bhaṭṭācārya, 1980, p.396; p.764:

Hāuŕe Gōsāi[13] 作の修行歌の一節

prem' sukh'dbār', kṛṣṇa rasākār', rasanāte tār' kara āsbādan' /

se ye yogāyog'-sthale mṛṇāl'pathe cale, sahaj'-kamale sudhā-bariṣaṇ' //

〈和訳〉愛（プレーム）は快楽の扉．クリシュナ神はジュース（＝経血）という形を持つ[14]．それを舌で味わえ．／それは交合の場所で，蓮の茎という道を通って行く．サハジャ（俱生）の蓮華に甘露の雨［が降る］．

歌の番号 275

indu bindu-gati sadā birājaý' / jībe nāhi jāne sādhu-santa cene / ras'-pāne jāne tārā amṛta-seban' //

〈和訳〉滴（＝精液）の到達点である月（＝頭蓋）は常に輝く．／［聖人たちは］サードゥもサントも生涯，知ることはない．／ジュース（＝経血）を飲んで［初めて］彼らは甘露の味わいを知る．

同書 397 頁に引用される歌詞は次のようである．

bindu-pān' karile sab' haý' bairāgī /　〈和訳〉滴を飲めば皆，離欲者になる．

“滴”（ビンドゥ）は精液のことであり，この詩句は精液の経口摂取を述べている．U. Bhaṭṭācārya, 1980, pp.397-398 は次のように述べる[15]．

「この 3 日間[16] の儀式には，流派の違い，地方の違い，そしてグルの違いにより，細かいところではいくらか相違がある．ある地方のバウルたちはこの日，経血と精液を混ぜて飲む．これを彼らは“ラサとラティの出会い”と呼ぶ．この男女両者のモノを摂取することの一定の式次第を，彼らの多くの者が守っている．両者の側で，修行者の男女は，口で吸って，お互いのモノを受け取り，混合して飲むことになっている．これが決まりである[17]．これは彼らの極めて秘密の事項である．」

このようなバウルの表現を参考とするならば，チャルヤーパダの問題の箇所の“蓮華”は，女性性器であり，“蓮華の蜜”は経血を指す，と考えられる．

“蓮華”（kamala, padma）が「蓮華＝女性性器／経血」を指すと思われる箇所はチャルヤーパダの他の歌詞にもある．例えば第 27 歌は「夜の間ずっと蓮華が開花し続ける」という不思議な文句で始まるが，真夜中咲き続けるロータスの花とは，おそらく月経を迎えた女性性器，あるいはそこから分泌される血液をさすと考えられる．この“花”はスシュムナー管をゆっくりと漂っていく[18]．

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

ムニダッタは，チャルヤーパダの簡潔な表現の中に，彼自身の時代の整備された複雑な修行体系を読み取ろうとした．Shashibhushan Dasgupta などの従来の学者は，チャルヤーパダを解読する際にムニダッタ注に依拠した．これらの学者たちは，バウルの実践する修行を，仏教タントラの高度な修行体系の〈崩れた形〉〈退行した形〉である，と見なす．梵語の高度な理論体系を基に古ベンガル語の修行歌が作られ，そしてそれが千年の間に退化して，今日のバウル歌謡になった，と考えるわけである．

しかし，逆の方向の説明も可能であるように思われる．11～12 世紀頃にインド東部に，民間の土着的な修行法として，性交修行が広まっていた．これを行う集団は，今日のバウルのように，民衆語による修行歌を演奏し，放浪した．ムニダッタの梵語による複雑な理論付けは，後からとってつけた過大解釈である，と私は推理する．とにかく，バウルの象徴的表現法をチャルヤーパダの歌詞解釈に当てはめることによって，チャルヤーパダの内容をより具体的に把握できる場合がある．こうして新期インド・アーリア語の言語史を研究する上で第一級の資料のひとつチャルヤーパダの解読を，現代ベンガルのバウルのフィールド研究の成果を利用して，推し進めることができる[19]．

参考文献

大西正幸:「ラロン・フォキル修行歌選」 コッラニ第 11 号所収　東京（コッラニ編集部）**1986**: pp.27-47

北田信：「ベンガルの詩的象徴　吟遊詩人バウルと古ベンガル語の仏教賛歌集」南アジア古典学第 3 号 **2008**（= **2008A**）年（発表予定）九州大学インド哲学史研究室：pp.227-274

—「インド・ベンガル地方の吟遊詩人バウルの胎生論」死生学研究第 10 号 **2008**（= **2008B**）年　東京大学大学院人文社会系研究科

静春樹：「金剛乗がもった女性観序説」 密教文化第 219 号 pp.105～136 平成 19 年

村瀬智（むらせ　さとる）：

—「『つぎはぎジャケット』と『ふんどし』—ベンガルのバウルの宗教と宗教儀礼」国立民族博物館研究報告 20 巻第 4 号 **1995**: pp.719-751

森雅秀：インド密教の仏たち　東京（春秋社）**2001**

Bhaṭṭācārya, Upendranāth': Bāṃlār' bāul' o bāul' gān'. Kalikātā: Oriyenṭ' Buk' Kompāni. tṛtīya saṃskaraṇ' 1408. (pratham' saṃskaraṇ' 1364). = **1980AD**

Das, Rahul Peter: "Zu einer neuen *Caryāpada*-Sammlung" *ZDMG Bd.* 146（***1996***）: pp.128-138

— : "Problematic Aspects of the Sexual Rituals of the Bauls of Bengal" *JAOS 112.3*（***1992***）: pp.388-432

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

Gorakh'bānī: Gorakh'-bānī. sampādak' aur' ṭīkākār' Pītāṃbar'datt' Baḍathvāl'. Prayāg': Hindī Sāhity' Sammelan'. śak' 1916/ san **1994.**

Kværne, Per: An Anthology of Buddhist Tantric Songs. A Study of the Caryāgīti. Bangkok: White Orchid Press. **1986.**

Siṃh', Jay'dhārī: Bauddh'gān'me tāntrik' siddhānt'. Caryāgīt'ka śaiv'śākt'-tāntrik' adhyayan'. Madhubanī. **1969**

White, David Gordon: Kiss of the Yoginī. "Tantric Sex" in its South Asian Contexts. Chicago/ London: The University of Chicago Press. **2003**

1）より厳密には新期インド・アーリア語の東部方言の古形.

2）本稿は北田 2008A, pp.258-260 の内容をさらに深めたものである．なお，本論文の内容について森雅秀先生より大変貴重な御意見をいただいた．ここに深く謝意を表する.

3）この年代の推定方法には問題がないわけではない．チャルヤーパダの成立年代については北田 2008A, p.236 を参照せよ.

4）R.P. Das 1996, pp.128-129, footnote 2. チャルヤーパダの性交修行については Siṃh' 1969, p.52ff の議論を参照せよ.

5）あるいは経血（愛液）と精液の混合物．(Cf. R.P. Das 1992, p.391, § 3)

6）Cf. 北田 2008A, p.236.

7）U. Bhaṭṭācārya 1980, p.369ff. 村瀬 1995.

8）R.P. Das 1992.

9）便宜的に Kværne 1986 に従う.

10）Cf. White 2003, p.74; p.99 (rajapāna) ; p.87 ff. (on 'betel' and 'camphor' in the Caryāpada).

11）サンスクリットのラジャスという語も「花粉」を意味する.

12）U. Bhaṭṭācārya 1980, p.374 の記述は曖昧で，これらの語が女性性器（ヨーニ）そのものを指すのか，それともヨーニに咲く花，すなわち経血を指すのか，はっきりしない．「八枚の花びらのハスの花」は，なんらかの実体，すなわち女性性器（あるいは女性性器内に想定されるチャクラ）を指していると思われる．タントラで女性性器が様々な花に喩えられることについては White 2003, p.115ff を参照せよ.

13）U. Bhaṭṭācārya, 1980, p.766 の伝記によれば，ベンガル歴 1202 年＝西暦 1798 年生，ベンガル歴 1317 年＝西暦 1913 年没.

14）U. Bhaṭṭācārya 1980 はこの詩句の ras' を経血と解している．しかし，文脈によっては ras' が精液を指すこともある（cf. R.P. Das 1992, p.397, footnote 54; p.399, § 12)．ここに引いた Hāuŕe Gõsāi の歌でも，クリシュナは男性原理が取る形態としての ras' は精液であると解した方が妥当なように思う.

　しかしヒンディ語のハタ・ヨーガ文献 Gorakh'bānī（1994, p.2, Verse 2）には pātāla kī gaṃgā brahmāṃḍa caŕhāibā / tahã̃ bimala bimala jala pīyā「(大意）地獄（＝マニプーラ・チャクラ）のガンジス川（＝クンダリニー）はブラフマンの卵（＝頭頂のブラフマンの穴）に昇り，そこで澄んだ水（＝甘露）を飲んだ」とある．つまり，甘露は頭頂のチャク

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

ラから分泌されることになり，ムニダッタ注に一致する．

15）U. Bhaṭṭācārya 1980, p.397.

16）女性パートナーが月経を迎える3日間．

17）Cf. R.P. Das 1992, p.418, § 42: "[…] a very secret Baul ritual, namely the imbiding (*grahaṇ*) of the four "moons" menstrual blood, semen, urine, and stool".

18）「水面を漂う花のような経血」というイメージは19世紀に活躍したバウルの大詩人ラロン・フォキルの詩にもある．（U. Bhaṭṭacārya 1980, p.623（no.128）；大西 1986, p.44）彼は「原初の水の中，その花は両岸を漂いわたる（大西訳）」と歌う．"原初の水"（kāraṇ'-bāri）とは「月経の分泌液」の隠語である．（Cf. U. Bhattacārya 1980, p.374）

19）もちろん，チャルヤーパダのコード言語が1000年を隔てたバウルの口承文芸において，ほぼ形を変えずに用いられている，という現象を，さらに深く論じる必要があろう．口承文芸の個々の作品（テキスト）は刻一刻と形を変えていくのに，その背後にある吟遊詩人たちの作詩法・表現法の方は姿をほとんど変えずに，何百年も伝えられてゆく．

〈キーワード〉 チャルヤーパダ，新期インド・アーリア語，バウル

（財団法人東方研究会研究員）

新刊紹介

S.KASAMATSU, M.YAMAZAKI,
and Y. OUSAKA

Saṃyutta-Nikāya
Pāda Index and Reverse Pāda Index
Vol.I

A4版・本文137頁　PHILOLOGICA ASIATICA
Monograph Series 24　2008年10月

NII-Electronic Library Service